

# 岡田 まり

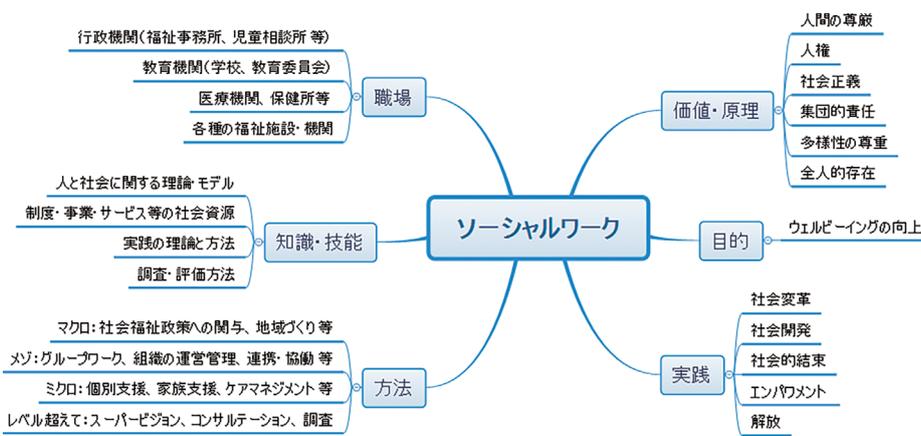
(産業社会学部)

## 「環境×人間」共生社会

人が幸せに暮らすためには、①成長し生活するために必要な資源（家、お金、サポートしてくれる人など）や機会（学ぶ、働く、何かに取り組むなど）がある環境と、②資源や機会を活用して日々の課題に対処する力（認知行動スキルなど）の両方が重要です。これらのなかに不足や不調があると、人は

生活上の困難に直面します。この状況は、病気や障害、失業、低所得、差別・偏見など様々なことによって引き起こされます。福祉専門職（ソーシャルワーカー）は、困難な状況にある個人や家族をさまざまなサービスや手法を用いて支援したり、地域住民が主体的に地域課題を解決できるように支えたりする

ことで、誰もがその人らしい生活ができる地域共生社会をめざしています。一方、福祉専門職は、ストレスの高い業務に従事し、なかには燃え尽き症候群になって離職する人もいます。また、少子高齢化が進む中で福祉課題は複雑化・高度化し、従来とは異なる業務遂行のあり方が求められるようになってきています。そこで私の研究では、専門職の資質向上・人材確保に焦点をあてています。



所属

産業社会学部

研究テーマ

- 高齢者・障害者の地域生活支援
- ソーシャルワークの実践方法
- 福祉専門職の養成・現任研修・スーパービジョン

キーワード

ソーシャルワーク、スーパービジョン、自立生活、コンピテンシー、エンパワメント

## スーパーバイザー養成の研修モデル

スーパービジョン (SV) は、スーパーバイザー（上司や指導者）がスーパーバイザー（スタッフ）に、責任ある職務遂行と専門職としての成長ができるように関わり、サポートするものです。欧米ではSVは業務の一環とされており、メタ分析では、SVがある方が有益な結果が増え、有害な結果が減ることが実証されています。日本ではSVは未定着で、その理由の一つにスーパーバイザーになる人材の不足があります。そこで、私の研究班ではSVの普及をめざして、スーパーバイザー養成のための研修モデルを開発しています。

日本ソーシャルワーク学会（2023年）発表

### モジュール方式に基づく スーパーバイザー研修モデル(案)

- 研修モデル開発の方針
  - ・ エコロジカルモデル、システム理論、教育理論に基づく。
  - ・ 暗黙知を形式知へ変換し、伝達可能で共有できるものにする。
  - ・ 応用研究+普及のための実証研究
- 研修モデルの構成・内容
  - ・ 研修モデルは、価値、分野、経験学習の段階、参加者の熟練度に応じて作成されるモジュールから構成される。
  - ・ 1モジュールで、1~複数のコンピテンシーを獲得する。
  - ・ 1モジュールは、1時間程度のミニケースメソッドとし、事例の1場面について、参加者がスーパーバイザーであったらどのように対応するかをグループ討議する。
  - ・ 研修は、現場の状況や参加者の関心・ニーズに応じてモジュールを一つ選択する、あるいは複数のモジュールを組み合わせることで実施できるものにする。